

★講演★

子どもをみて考える

——股関節脱臼のことから——

坂 口 亮

(一九七七年九月六日に幼児教育現
職研究会で行なわれた講演より)

ヒポクラテス以来の病気

結論などというものは無いのですが、問題提起のようなことでお話をし、それで皆さ

はじめまして。ただいま、御紹介頂きました坂口でございます。医者の端くれでござります。子どもの病気を直しているの

んにも、実際、現場で御経験の方も多いと

思います。

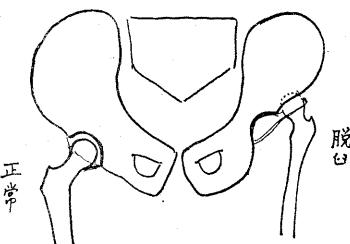
思ひますので、御意見を伺わせて頂いたりすれば、今日私を呼んで下すった意味が出でてくると思います。

さて股関節脱臼というのが、私にひとつあります。

い訳で、だんだん、保育やなんかにもある意味で共通することがあるのでないかと思つたりしております。

正當なら骨盤の窪みの所に、丸い大腿骨頭がはまつていて、きれいに動いているのですが、はずれていると、支えが無いので

〔図1参照〕体重をかけることに上下動して、腰を振って歩くとかいうようなことで、それが昔から医者の連中の悩みの種になりました。



1

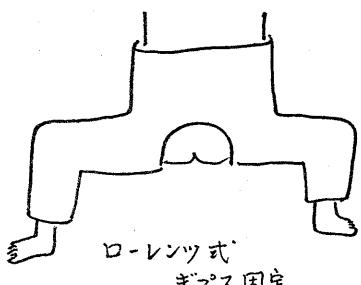


图 2

まだ本当の原因はわかつていないので
が、女の方が、五人か六人に男一人という
ような率で多いんです。で、年頃のきれい
な御嬢さんなどが、やはりそんな歩き方を
すると、なんとかならないものかと、昔か
らいろいろな試みがされました。

じ訳で、はめることになります。ところが、もともと、生まれつきということで、はずれている人にとっては、はずれている方が自然で、はめてもすぐ出てしまふ。出てしまつては治療にならないからとう。言うので、ギブスを巻く訳です。

は、一八九五年、ウイーンのローレンツといふ人なんです。この歴史を見ますと、種々、考えさせられることをもつてゐます。それまでに、いろいろな人が試み、試みては駄目で挫折した、その脱臼に対し、ローレンツが一応成功したのです。

いた形が一番良いのですから、両足をギアテープで、がんじがらめにしまして、おしゃべり、うんちの穴だけあけとおきます。

ませんから、はずれません。はずれはしないけれども、これでは使いものにならない」ということで、マッサージに通い、お風呂に入れたりして、だんだんやわらかくして、それで治療が完成したということなん

この方法を
発明したの

整復と固定と後療法、この三つが三大原則として必要なことで、これにより、脱臼

がはまるし、直るということで、この人は画期的なことをしたと言つて、世界から注目を受けたんですね。

それまでも、はあるだけならば、なんとかできただですが、すぐはずれてしまつて駄目でした。なかには、業を煮やして、手術してはめればいいということで、手術しました。

しかし、今のようにいい抗生素質がありませんので、すぐバイ菌が付いて化膿してしまい、それで、かなり深い所ですので全身、敗血症になり、生命を落してしまいました。

あるいは局所だけですんでも、うんだ後、固まりますから、股関節が動かなくなつてしまふんですね。ですから、まがつたまま固まつたりしました。

ここまで、ことごとく挫折の歴史で、ローンツがはめて固めたら治るんだと言いますと、ついにヒボクラテス以来、不治

といわれたこの脱臼が直るんだということで、ローンツは世界の注目を受けて、人は皆、ウィーンへ、ウィーンへと習いに行つた訳です。

整形外科というのは、ある意味で、ここから始まつたようなものです。どうも外科の方は、手術が専門で、すぐに切つたりしました。

しかし整形外科というのは必ずしも切らずに、外から手ではめて、固めて、その後、柔らかくするというような、メスで治すのではない。だから、やはり、外科の一部ではなく、整形外科は独立して、そういうことをやるべきではないか。関節なんかに関しては、後の機能を良くすることを考えながら、そうすべきではないか。ドイツでは、それをもとにして整形外科が独立しました。余談になりますけれども。

皆、ウイーンに集まりますと、このローンツ先生が、子どもを集めて来まして、ポンとはめる。力でもつてすると、はめました。

時、ポンといい音がするんです。整復音といつて、その音がありますと、その子どもたちが遂に治つたということで、勝利の音のように街々に鳴り響いたなんてことが書いてあります。

ローンツ先生、世界中の人が来ますし、自身もあちこち回つて講演して歩き、実技をやつてみせまして、ずいぶんお金儲けができたそうです。そしてこのようになって、これから今世紀一九〇〇年、一九一〇年代には、子どもたちは、十歳か十五歳位になつてゐる訳ですが、成績は意外によくなかった。年頃になる頃、猛烈に痛みが起つて来たり、痛いために、動きが悪くなる。跛ひじきをひかなくちゃ、歩けないことになります。

この方法でもまだ駄目なんだという絶望的な気持ちが起つてきたものの、といつて、これに替わるものがないんですね。はず

れがいるのは、やはりはめて、固めなければ治らない訳です。なんとかギブスに替わるものがないんだろうか、体の出し入れができるよう機械にしておくとか、(ギブスは巻いたままで出し入れができません)なんとか皆、工夫をした訳です。

一方でまた、早く脱臼を見つけて治療した方がいいんじやないかということになりました。脱臼というのは、大ていの子どもは、痛くも痒くもないで、歩き始めないとわからないんですね。普通、お誕生過ぎると、一歳三・四か月頃までには歩き始めますが、それを過ぎてもまだ歩き始めなくて、「どうも遅いな」なんて言っているうちに、歩き始める。しかし、肩を振って歩くとかで、やっと気がつくと、どうしても一歳をかなり過ぎてしまします。

昭和三〇年頃から保健所などが力をいれて、三か月、四か月の検診で脱臼の赤ちゃんをどんどん見つけるようになりました。

しかし脱臼があると早くはめなくちゃいけないということで、結局、整復と固定の方に来るんですね。他に手がないんです。小さな赤ん坊の骨の柔らかいうちにこれをやりますと、骨の軟骨の頭に傷がつき、後のみじめさといったらないんです。

れっきとした大学の一派の先生にみてもらい、ギブスで固めて、お母さんは我が子の幸福を願つて、毎日毎日、マッサージに通いました。その結果が良ければいいんですけど、いじめられた後の傷跡は、一生残るんですね。特に成長の芽を摘み取られます。

ようなものでは、だんだんそれが差になつて現われ、片方はスクスク伸びて

チエコのおみやげ

一九五七年（昭和三十二年）にパブリック

という人が、チエコの人なんですけど、非常にささやかな論文をドイツ語で出しました。自國語ではだいぶ前に出してたようなですがね。やはり大国主義といいますか、アメリカやなんかでは、チエコの人

のに、跛ひづをひくこともあります。親もまあ、あれだけ苦労したのだからしようと、いつの間にか、あきらめた境地に達し、それから、努力したことに対する満足感で過ぎて来ただんですね。

医者の方も、決して怠けていた訳ではないですが、他に手が無いんですから、どうにかならないかと思いつながら、これもしないがいいということで、結局、約六、七年になりますかねえ。これで過ぎていたんです。

は、知られていないんです。そういう意味

で無名な人だったんですが、ドイツ語で出したので、少しドイツ語圏に普及しました。

その論文によると、何もこちらから、はめなくてもいいんだというのです。赤ん坊がこうやって、「図3参考」近頃、街を歩いていますから御存知と思いますが、肩からズボン釣りみたいに、足を釣つとくだけ

でいいんです。足のところが、ちょうど乗

馬の鎧のようですから、これを鎧、ドイツ語でビューゲル、吊る部分が革紐でできていますので、リーメン。リーメンビューゲルと言いまして、「革紐鎧法」です。

これでただ釣つとくだけなんですねえ。

そうしますと、伸ばすことだけができなくて、あとは自由に動かせるんです。そうすると、自然に動かしているうちに、自然にはまってしまうんです。こういう論文を出したんですけども、世界の人があまり本

当にしないんですねえ。

私たちが東大の医局に入った頃は、まだ昔の教育をちょっと受けましてねえ。先輩連中に、はめ方、次にはギプスの巻き方を教わる訳です。時には、ギプスを巻いて、中を見ますと、はずれている。折角、巻いた後、レントゲンを撮つてみると、はずれている。そうすると先輩に、すぐにらまれましてねえ。

「おまえのギブスはなんだ、すぐ巻き直せ」と。そこでギブスを切つて、また巻き直します。赤ん坊のことなんか考えていないのです。いつもレントゲンの写真がいいかどうか、そればかり考えていた訳です。

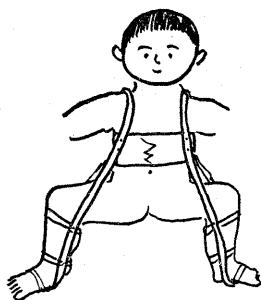
そのお土産を、パブリック先生の論文と一緒に、私たちの東大の医局に紹介されました。ところが、三木先生という偉い先生、何もその先生個人を指す訳でなく、そのジェネレーションの偉い先生、教育者の立場にある先生方には、新しい事実が理解できないんです。そんな馬鹿なということ

で、それで、折角紹介した鈴木先生に怒られましてねえ。「君は横文字にまどわされているんだ。横文字の論文をみると、なんでもいいようにみえてしまうんだ」と言う

私たちの先輩で、当時、東大の講師で、今、

のです。

その位嚴重にしても、はずれてしまうことがあるのに、こんな紐でもつて治るとなつたら、こんな馬鹿な話はない訳ですよね。



リーメン ピューゲル
(革紐) (あぶみ)

▲ 図 3



▲ 図 4

「こんなインチキなものが流行っちゃ困る」といわんばかりの教授の不評を買ってしらけた空氣になったのです。その時、二つの疑問点が出ました。ひとつは、こんな物をつけておいても、はあるはずはないんじやないかという疑問です。今まで一生懸命、はめる技術の工夫に努力して来たのですからねえ。

次の疑問は、一步譲って、こんなもの動かしているうちに、はまる可能性はひとつ認めてもやろう。ただ次に、折角はまって

も、子どもが脚を動かせますから、脚をすばめた時に、脱臼ははずれることになりますね。また開くとはまるかもしれない。そうすると、骨頭が出たり入りたりしていくは、結局治らずじまいになってしまわないかということ。その疑問が非常に大きかった訳です。それが恐いから、ギプスでぎゅっとしめていた訳です。

鈴木良平先生、そんな環境でしたが、東大で一生懸命、治療に当り、結構うまくいくことを発見しました。学へにも発表し

たりして、だんだん日本全国に普及していました。その後、私もまあ、やらせてもらつたようなのなんですかけれども、私としては、そういう歴史的なことを知つて、いましたし、それから、ある意味で助かつたと思うのは、これがいろいろなことを教えてくれる画期的なものであつたことです。

私が、それまでのギプスでがんじがらめにして治療することに対する居直つた気持ち。あんなこととして脱臼の治療をする位なら、はずれたままの方がいいんじゃないかという気持ち。あれだけは、絶対にいけないと思つていたので、新しい考え方に入つて行けました。

たとえ昔の強引な治療をしてでも、治さなければいけないと思っていたら、非常に入りにくかったと思います。幸いなことに私は前の方法の悪魔的な感じが、とてもいやだったので、これが非常に幸いした訳で

す。

それで非常に面白いのは、脱臼がはまつて、子どもは脚をすばめて、またはそれてしまうんではないかという、いかにも最もらしい疑問に対する答えです。

事実は、さにあらずで、子どもを実際に見てますと、脱臼の時は、股の開きが悪い。それに対し、黙つて、リーメンビューゲルをつけていりやいい。そうしますと、二、三日するうちに、（早い人はその晩なんですけれども）一週間位たつて来てもらいますと、ちゃんとほまっている。股が完全に開いている。

それから、お母さんによく聞いてみますと、一晩か二晩たった時に、一度ギヤーッなんて泣いたことがあります。それから、こう股が急に開きましたなどといいます。

面白いことに、私たちの所に来る時は、その聞いた足をすばめないので。実にもう、きのんとおとなしくしたまんまで。で、

いい方の足は、じつとしていませんから、

どんどん動かすんです。片側だけの脱臼の

場合は、左右の差が非常に印象的です。

〔図4 参照〕

の方が自然にはまつて治っていくという事

実は、真に考えさせられることですねえ。

はざれるということを考えてみると、そ

れは非常に理屈があることなんです。これは少し学問的にになりますが、はまるということは、このきれいな窪みに、骨頭がはまることで、中に少し邪魔物がありますと、

こわいんですねえ。平滑な丸い窪みに骨頭が入つたら、はずれないようにしてしまってきます。こっちで一生懸命、はずすまいとして固定してしまつても、子どもは

ギブスの中で必死になつてはざぞうとします。だから一層、固定を厳重にしなくちゃならない。子どもは油断もすきもあったもんじゃない。ちょっとゆるめたらはずん

ります。つまり、ギブスで固定されると、骨頭を傷つける最大の原因ともなります。

はまる——整復されたということは、非常に嬉しいことであると同時に、一方において、そのような危険と同居してはいられないか

だという考え方と、ほかーんとやっておいて、はざれるんなら、はずれてもいいんだというふうに構えていると、むしろ子ども

ですから、その場合、私たちとしては、は

どう心配を伴う訳です。

自分で治す力

されるものならはずれてくれたらしいと。

これは次の手を考えればいいんですからね

え。無理矢理固定して、後生大事に、はず

れないようにしておいて、一生取り返しが

つかない傷を作ってしまったら、こりや大

変だということです。

ですから、このリーメン・ビューゲルとい

うのは、子どもがいいやなら、はまりません

し、もしまはまつても本当にいいはまり方で

なければ、また動かしてはすすでしよう

し。いいはまり方だからこそ、びたつと、

はずれないように、動かさなくしてるんで

す。

同じように、もしもギプスに準じたよう

な機械を使わなくてはいけない時でも、が

っかりと固定してしまうことは、非常にこ

わいことで、いつも、ゆとりをもって、中

でガタガタガタ動かせるようにしてくんで

すね。原則として子どもは、はまつたらはず

ざないんだという、ひとつの事実を得ら

れていますから。

そうしますと、例えば、私がまあ、口で

こそ言いませんけど苦しかったら、はずし

てしまつていいんだよという構えでやって

ますと、おもしろいことにはすぎないんで

す。

それを私たちの仲間の、整形外科の医者

が集まると、皆わからんんですね。

そんなはずはないと言つてねえ。折角、い

い所まで行つたと思うと、また、つまらな

い所で、子どもを疑つて手を加えるんです

ねえ。そういう人が非常に多くてはなはだ

心外なんですが。

それで、私がそう言いますと、すぐ、ま

た始まつたとかいうようなことで相手にさ

れないと、事実はそう

で、はずれるなら、はずれてもいいという

ことでやつていますと、子どもはそんなに

はずさない。ただし、いつでも、もしはず

れたら次の手という後続の手がありますか

らねえ。それがないと、とてもこわいで

す。それから、やはり原則として子どもは

そろはずさないんだという事実が何といつ

ても大きな強味です。

私も、悪魔的とかなんとか、以前の治療

法をさんざん悪く言いますが、考えてみま

すと、我々の先輩連中も、決して悪魔のよ

うな考えは毛頭なくて、なんとかして子ど

もを治してやりたい、放つとけば、将来、

跛をひくであろう。年頃の娘さんなんかを

想像して、ここで頑張らなければと、心を

鬼にして、一生懸命やり、お母さんも医者

にくつついて、我が子可愛さのあまり一生

懸命やつていたんです。それが皆、あだに

なつてしまつた。なんとも、やるせないと

言いますか、切ないと言いますか、そういう

う気持ちを起させる謂です。

我々非常に頼りない存在で、本当にいいと思つてやつてゐることが、一生懸命やつてゐる時には、ある意味において一番氣をつけなくてはいけない。いつでもニヒルでは困る訳ですけれども。洗い直してみたりしながら、やはりいつでも反対の自分といふものを作つて、やはりこれでいいんだ間違いないんだと確かめていかなくてはいけない。

は、特に子どもを扱つておられますし、私たちも患者、子どもを扱つてゐる訳です。本当は政治家は、国民全部を扱つてゐる訳ですから、政治家に頑張つてもらわなくちや困るんですけども、自分が善意から努力して、人を巻き添えにしていいのかどうかですねえ。

自分が苦しい努力をするならいいんですけれど、それを押し付けて、その結果

それから悪そな時は、やつぱり素直にどんどん変えていく方がいいですねえ。いつも頑固に、固執するんぢやなくて、それが、いわゆるフレクシブルというやつだと思うんですねえ。

自説を曲げないといふんぢやなくて、やはりそれでいいと思つたことは、それだけことを練つた上でのこと、その上で良ければ、進んで行つても間違ひが少くすむということではないでしょうか。

それからその努力のことですが、皆さん



(整肢療護園)

幼児の教育 第七十七卷 第二号		二月号	◎ 定価二二〇円
昭和五十三年一月二十五日	印刷	昭和五十三年二月一日	発行
112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一	お茶の水女子大学附属幼稚園内	112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一	お茶の水女子大学附属幼稚園内
編集兼 発行者 津 守 真	112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一 お茶の水女子大学附属幼稚園内	108 東京都港区三田五ノ一二ノ一 発行所 日本幼稚園協会	108 東京都千代田区神田小川町三ノ一 印刷所 図書印刷株式会社
まあ、その辺の所の、最後の二、三行位 が私の申しあげたい所です。	まあ、その辺の所の、最後の二、三行位 が私の申しあげたい所です。	まあ、その辺の所の、最後の二、三行位 が私の申しあげたい所です。	まあ、その辺の所の、最後の二、三行位 が私の申しあげたい所です。

○本誌御購読についての御注文は発売所 フレーベル館にお願いいたします

※万一製品不良本がございましたら、おとりかえいたします。